

平成26年7月24日

文部科学大臣

下村博文 殿

一般社団法人 国立大学協会 会長 松本 紘  
一般社団法人 公立大学協会 会長 木苗 直秀  
日本私立大学団体連合会 会長 清家 篤

## SINETの強化と安定運用に必要な予算の確保について（要望）

国立情報学研究所が運用する SINET は我が国の大学のネットワーク環境の基盤を支えているものであり、全ての国立大学、約8割の公立大学65校と、ほとんどの大規模大学を含む半数以上の私立大学320校が接続している、いわば日本の学術の「動脈」としての役割を果たしております。

SINETはもともと大学の大型計算機同士を結ぶネットワークが発展したものであり、その性質上、一般向けの回線よりも高い通信速度と信頼性を提供してきました。また、スーパーコンピュータ「京」をはじめとする国内研究施設や海外の共同研究施設はネットワークなしでは機能を発揮できず、接続のための情報インフラとして、我が国の先端的な研究の進展を支えてきました。

しかしながら特に近年、ビッグデータの活用や計算機シミュレーションの大規模化などに対応するため、世界的にも学術ネットワークの大幅な高速化が進んでおり、さらには Coursera や edX に代表される大規模オンライン講義（MOOCs）の台頭など、研究面だけでなく教育面でも高速かつ高度なネットワーク環境が求められるようになってきております。

米国では既に基幹ネットワークの 100Gbps 化が完了しており、欧州や中国でも 100Gbps 回線の整備が進んでいます。また米国と欧州の国際回線までも

100Gbps 化が進められており、既に 100Gbps がグローバルスタンダード となっているだけでなく、各国とも更なる高速化を検討しているのが現状です。

これに対して我が国では基幹回線で 40Gbps、末端回線ではわずか 2.4Gbps という状況にあり、また国際回線も欧米回線とアジア回線をすべて合わせて 40Gbps となっているなど、国際的に見て大幅に整備が遅れております。このままの状況が続けば、近いうちに国際共同研究で支障が生じることはもちろん、研究力そのものの相対的な低下を招くなど、大学のグローバル化や研究力強化の足枷になることは明らかです。

また、大学は学生の個人情報や大量に保有しているだけでなく、産学共同研究の増加に伴い企業の機密情報を扱う機会も増加しており、不正アクセスなどがあつた場合の社会的な影響は極めて大きいものになります。他方でセキュリティの強化は大学が個別に対応するには技術的にもコスト的にも難しくなっており、国立情報学研究所が大学と連携して強固なセキュリティを一元的に構築・管理することが現実的な対応であると考えられます。

このため、早急に SINET の高速化・高度化を図る必要があり、そのための検討自体は進められていますが、他方で SINET 関連予算はここ 2 年連続で大幅に削減 されており、このままでは 高速化・高度化はおろか現状の性能の維持すら危ぶまれる状況 に至っております。

現在、国立大学、公立大学、私立大学は、いずれもグローバル化や教育力強化、研究力強化など社会の要請に応えるべく大学改革に精力的に取り組んでおります。しかしながら、グローバル化、教育力強化、研究力強化いずれにおいても、高度で安全な情報基盤の確保が不可欠です。我が国でその役割を果たし得るものは SINET 以外に考えられない現状から、大学関係者の総意として、我が国の学術ネットワークの基盤となる SINET の強化と安定運用に必要な予算の確保を強く要請いたします。